

灣の海防史」(文學士藤井甚太郎氏)、「鎌倉武士の學問修養」(鷺尾顯敬氏)、「劇に現れたる鎌倉武士」(文學士堀田璋左右氏)、「鎌倉公方と室町幕府」(文學士渡邊世祐氏)、「武相の古美術」(文學士福井利吉郎氏)、「武相の古文書」(文學博士黒坂勝美氏)等あり。加ふるに巻頭二十一葉の寫真版を添へて本文との參看に資し、附圖として武相史蹟地圖一葉を附せり。菊版五〇二頁(仁友社發行、價、二〇〇)〔中村〕

◎ 雜 誌

◎ 我國に保存せられたる古代土耳其文字 文學士中目 覺 (尙古)第七十一號所載)

北海道小樽手宮の洞穴内の岩石に見る文字縊の彫刻に就いては大正二年、島居龍藏氏が、之れを以て古突厥文字にして、其言語はツングース語なるべしと述べしことありしが、著者は露西亞のラドロフ氏の「蒙古に於ける古代土耳其文存」の著を読み、其文字が手宮の彫刻と類似するを見るに及んで、遂に是等の比較研究を企て、手宮彫刻は古代土耳其文字にして其文字の或るものは之れを横に書けるものもありと判定し、更に其言語に於ては北海道の對岸に位せしツングース人の言語なるべしと推測して、之れを「グルーベ著ゴルテ語集」に求め、手宮の文字縊彫刻を、率ある。

大海。闊ふ。入る。の語なりと判讀し、全文の意は「……我は部下を率ゐ、大海を渡り……闘ひ……此洞穴に入つた……」ならんと指定せり。此言語は滿洲語とオロツコ語との中間に位し、東トングース語に屬するものにして、烏蘇里地方の住民の言語なるべく、著者は之れを鞅鞞語と名け、手宮彫刻は、さきの意味を古代土耳其文字を以て書ける鞅鞞語の文章なりと言へり。〔西田〕

蒙古襲來に就ての研究

八代 國治

(史學雜誌第二十九編第一號所載)

文永弘安の役に關して新に世に出でたる勅仲記原本、弘安四年日記抄、異國御祈文書等の史料に基き研究したるものなり。其中文永役に關しては其來襲を十月十三日なりとし、大友頼泰の部下が賊徒五十餘人を捕虜とし、之を具して上洛せりとの新事實を述べ、幕府の異國征伐については鎮西、中國の武士の外、大和國の寺僧と國民とを徵發して頗る大規模に企てられたりと推し、弘安役については賊船は五月廿二日對馬壹岐を侵略し進んで博多沿岸に迫りしが、同時に別隊として多數の船艦を送りて長門沿岸を攻撃したりと事、六月中旬に至り再び敵の船艦對馬島に來着し、更に博多を侵せし事等を述べ尙、捕虜の待遇、戰爭の中心地に論及し、更に身を以て困難に代らんことを伊勢神宮に祈願し給ひとは

龜山上皇にあらすして後宇多天皇なりとし、最後に時宗の信仲は禪より來るもの、外に其一族にして眞言宗たる賴助僧正より感得したる點も深かるべしと結べり。〔中村〕

●唐以前の福建及び臺灣に就いて 文學博士 市村瓚次郎

(東洋學報 第八年第一號所載)

唐以前の此の地方は福建臺灣の稱呼未だ存せず、今の福建省は秦の閩中郡、漢の閩越地方なりと謂はれ、古代より閩なる名稱を以て示されたる地方なるが、周禮曠方氏に八蠻七閩の語ありて此の地方の未開民族を總稱せり、蓋し閩は元來、種族名稱なるべく、閩と蠻とは語原の同一にして、等しく野蠻民族を意味すると思はるれば、閩とは此の種族の稱呼より施きて其の住せる地方をも指す語となりしなるべし、山海經にも閩は海中に在りて甌と隣界の地方なることを記せるが、續漢書郡國志、史記東越列傳、山海經郭璞注、史記索隱、元和郡縣志等に據りて東甌が今日の浙江省温州府なる永嘉江流域の地方なるを知り、此より推測して閩が今の閩江の流域即ち福州府より建甌府方面に亘る國なりしを知る、而も此の地方は久しく化外の地として知られざりしが、秦に閩中郡を置きて以來、漢の武帝此を經營する所ありしも、猶化外の觀ありき、三國に及び吳の孫策、此が經營をなし、數縣を置き、東、南、兩郡都尉を設けて此を統治せしめ、吳の永安三年(二〇〇年)

以後は後漢以來の諸縣の外に將樂以下の四縣を置き、此の方面は漸次開發の氣運に會し、晋の太康三年(二八二年)には東に縣を設く、唐代に入りて福州九縣建州五縣泉州四縣漳州三縣汀州三縣の五州二十四縣となり、時代を逐ひて開發せられしを知るに足る、廣東に比して開發の遅れたる福建の、其の對岸なる臺灣が、廣東の對岸なる瓊州島に比して開發の遅れたるは自然の結果にして、抱朴子金丹篇に見ゆる東翁洲、亶洲、夷洲の中、亶夷二洲は三國志吳志孫權傳にては徐福到達の地として記され、此が爲に古來此の二洲を以て日本に擬する説多きが、此は誤にして、亶洲は恐らくば今の瓊州島なるべければ、義楚六帖の如きは此の誤れる説をなせる甚しきものと云ふべし、而して夷洲の臺灣ならむとは太平御覽七八〇卷臨海水土志の記事により方角、距離、氣候、地形、地球、物産、風俗の如何にも臺灣生蠻人に合するに據りて推想し得、東晋、南北朝時代に化外の地となりしは政治的關係の生ぜざりし爲なるべし、隋に至りて復經營せられ、流求の名によりて知られ、後漢末より三國にかけて福建の開發せらるるに伴ひ漸く知らるゝに至りしならむ云云。〔那波〕

●今福發欄の剝舟調査報告

西村 眞次

(造船協會雜誌第十二號所載)

昨年六月大阪府東成郡鯉江町大字今福の鯉江川底より發見せる